

# 会 議 録

<b>会議名称</b>	第4期幸区区民会議 第3回専門部会（みんなで見守りたい）
<b>日 時</b>	平成24年12月12日（水）18:30～21:00
<b>会 場</b>	幸区役所 5階第3会議室
<b>出席者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区民会議委員（五十音順） 神谷美和委員、古場敏光委員（部会長）、酒井清委員、鈴木忠夫委員、戸張一吉委員、檜林照江委員、原紀代子委員、春田公江委員、村田清子委員（副部会長）</li> <li>●事務局 幸区役所まちづくり推進部企画課 佐々木智子課長、加藤剛史係長、菅野和彦職員、池田智裕職員、地域保健福祉課 家中悦子係長、高齢者支援課 大城敬子係長、保健福祉サービス課 岩崎美穂係長、株式会社地域計画連合 桑原佐知子研究員</li> </ul>
<b>欠席者</b>	鈴木都委員、遊佐栄津子委員
<b>配付資料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●議事次第</li> <li>●資料1 幸区内における「見守り」の取組について</li> <li>●資料2 具体的な調査・審議について</li> <li>●資料3 第4期幸区区民会議「みんなで見守りたい」スケジュール（案）</li> <li>●資料4 第4期幸区区民会議だより 第2号（案）</li> <li>●資料5 第4期幸区区民会議 平成24年度スケジュール</li> <li>●第2回第4期幸区区民会議 議事録</li> </ul>
<b>議 題</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 取組内容の検討について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幸区内における「見守り」の取組について</li> <li>(2) 具体的な調査・審議について</li> </ol> </li> <li>2 第4期幸区区民会議だより第2号（案）について</li> <li>3 その他</li> </ol>
<b>決定事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地区社会福祉協議会や民生委員児童委員を対象に、見守り活動の現場の実態を調査する。</li> <li>●見守りの対象については、調査を繰り返す中で絞込みを行う。</li> <li>●次回の第4回部会については、実態調査の日程調整を踏まえ、日程を再度調整する。</li> </ul>
<b>会議の内容及び主な発言</b>	<p><b>1 取組内容の検討について</b></p> <p>今後の部会の進め方について、部会長より提案があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず現状の見守り活動のラフモデルを作成（現状と課題の把握）し、三現主義（現場、現人、現実）で、インタビュー等の調査を行う。</li> <li>・開催が予定されている専門部会以外の日に委員で手分けをして調査等を行う。</li> </ul> <p>(1) 幸区内における「見守り」の取組について 資料1に基づき、事務局から、幸区内における「見守り」の取組について説明</p> <p><b>【主な意見・質疑応答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●見守りの目的は孤独死を防ぐということなのではないか。異変があった際に行政は情報公開するのか。協力事業者に情報をあげていないと状況がわからないのでは。 ⇒市民全般を対象とした川崎市地域見守りネットワークは全市民が対象。異変に気づいた場合、地域保健福祉課に契約者の状態について協力事業者より連絡が入る。協力事業者には個人情報渡しておらず、行政側で確認し、わかった時点で結果を通報事業者に知らせている。</li> <li>●見守りを円滑にするためには、コーディネイト役の養成が必要ではないか。ボラ</li> </ul>

ンティアはたくさんいるが、うまくつながっていない。

- まちづくり推進委員会では、NPO 法人、ボランティア等を支援する組織の立ち上げについて検討している。
- 老人クラブでは、町内会、自治会、社会福祉協議会等と情報交換を行っているが、ボランティア団体等については、存在や活動内容などよくわからない。
- ボランティアセンターにボランティア団体の名簿がある。もっと活用できる方法があればよいと思う。
- 会食会等の行事や地域に出てこない人をいかに出させるかが問題である。
- 一人のほうが幸せという方がいるのも事実。ただし、その方の存在を知っていることが重要である。
- 民生委員は、ひとり暮らし等高齢者の見守り支援事業に協力しており、気になる方については、日ごろから気にかけて、見守り等を行っている。ただし、男性の 50～60 歳ぐらいの方々については、訪問するきっかけがほとんどない。
- 老人クラブでは、区が主催するふれすこサポーター養成講座に参加し、高齢者同士の支え合いを目的に活動している。

## (2) 具体的な調査・審議について

資料 2, 3 に基づき、事務局から、調査審議の方向性と今後のスケジュールについて説明

### 【主な意見・質疑応答】

- 調査はどういったところを想定しているのか。この部会には、民生委員や社会福祉協議会などを代表する委員が所属している。この場で話が聞けるのではないのか。  
⇒区民会議委員としての立場もあれば、団体を代表しての立場もある。現場でやっている方に直接伺うことでよりリアルな状況が把握できる。現場、現人、現実の三現主義が重要。
- ただヒアリングをしてもあまり実感がわからない。見守り活動の見学をしながら話を聞くほうがよい。
- 社会福祉協議会で運営する交流の場「陽だまり」を見学してはどうか。塚越の「陽だまり」は、高齢者に限らず子育て中の世代もよく利用している。
- 調査については、委員それぞれが日常の生活も抱えており負担も少なくない。日程が合えば参加するといったスタンスでよいのでは。
- 見守りを行う対象（見守られる人）については、主には高齢者であるが、現段階では対象は絞れない。調査をしていく中で決めていく。
- まずは、委員自身を知ることが大事。そこから「見守り」についての考えが自ずと出てくるはずである。
- 次回部会では、調査結果を共有したい。塚越の「陽だまり」以外には、民生委員への調査を行いたい。次回の部会日程については、民生委員への調査日を確定後、改めて調整してはどうか。

## 2 第 4 期幸区区民会議だより 第 2 号（案）について

資料 4 に基づき、事務局から説明。意見等がある場合は、12 月 18 日（火）までに事務局に連絡する。

## 3 その他

- 民生委員への調査日を確定し、改めて、次回の専門部会の日程を調整していく。

以 上